

**第2次南アルプス市総合計画  
後期基本計画・施策マネジメントシート**

作成日: 令和 4年 7月25日

更新日: 令和 5年 1月 5日

政策No.	2	政策名	ともに生き支えあうまちの形成	施策主管課	市民活動支援課
施策No.	8	施策名	多様性社会の構築	施策主管課長名	松下 浩
施策関連課名			政策推進課		

**1 施策の目的と指標**

(1)対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等	(3)対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位
市民	A 人口	人
(2)意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	B	
年齢・性別・文化などに関係なく互いに尊重して暮らすことができる	C	
	(4)成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
	① 職場や地域で男女差別を感じている市民の割合	%
	② 審議会等における女性委員比率	%
	③ バリアフリーやユニバーサルデザインの意味を知っている市民の割合	%
	④ 多文化共生社会を知っている市民の割合	%
成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)	① 男女共同参画の浸透状況を示す/性別に関係なく互いに尊重されていけば、職場や地域での男女差別はなくなり、男女差別を感じる市民が減っていくので、成果指標とした。 ② 市政への女性の参画状況を示す/市の審議会等の委員は男性が多いのが現状である。多様性が尊重されたまちづくりを行うためには、各種計画の策定や進捗管理などを行う審議会等の男女比率が同程度に近づき、男女双方の意見が反映されるべきなので、成果指標とした。 ③ バリアフリー・ユニバーサルデザインの認知度を示す/多様性が尊重されるためには、日常生活や社会生活におけるあらゆる障壁を取り除き(バリアフリー)、すべての人が気持ちよく使えるよう生活環境を計画する(ユニバーサルデザイン)ことへの理解が重要であるため、成果指標とした。前期においては「障がい者福祉の充実」の成果指標であったが、障がいの有無だけでなく年齢、性別、国籍、人種などにかかわらず様々な人を対象とするため、「多様性社会の推進」の成果指標とした。 ④ 多文化共生社会の認知度を示す/市内にも外国人が増えている中、多様性が尊重されるためには「多文化共生社会」を市民が知る必要があるため、成果指標とした。※多文化共生社会・・・国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め、対等な関係を築こうとしながら、ともに生きていく社会。	
成果指標の測定方法 (どのように実績値を把握するか)	① 市民アンケート「職場や地域で男女差別を感じていますか」において、「あてはまる」や「ややあてはまる」と回答した人の割合<低下したほうが成果向上> ② 「法律・条例等により設置されている審議会等一覧」の女性委員数÷総委員数×100 ③ 市民アンケート「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」の意味をご存知ですか」において、「知っている」と回答した市民の割合 ④ 市民アンケート「多文化共生社会」とはどのような社会かをご存知ですか」において、「知っている」と回答した市民の割合	

**2 指標等の推移**

指標名	単位	数値区分	前期基本計画					後期基本計画				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
対象指標 A 人口	人	見込み値					71,089	70,568	70,041	69,521	68,996	68,430
		実績値	72,305	72,018	71,880	71,602	71,370	71,249	71,395			
		見込み値										
		実績値										
成果指標 ① 職場や地域で男女差別を感じている市民の割合	%	目標値	19.0	18.0	17.0	16.0	15.0	25.0	23.0	21.0	19.0	15.0
		実績値	27.5	23.5	25.1	26.5	22.5	27.7	25.1			
		目標値	38.4	38.8	39.2	39.6	40.0	37.5	38.0	38.5	39.0	40.0
		実績値	34.5	34.3	36.1	36.2	36.2	33.4	31.8			
		目標値	62.0	64.0	66.0	68.0	70.0	54.0	57.0	60.0	62.0	65.0
		実績値	57.0	50.4	57.0	50.6	53.5	53.0	53.4			
		目標値	-	-	-	-	-	15.0	17.5	20.0	22.5	25.0
		実績値	-	-	-	12.8	13.7	11.7	14.1			
目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)												
① 前期最終年度の目標値に達成しておらず実績値は横ばいのため、後期の目標値は実績値から最終的に前期の目標値になるよう設定する。												
② 県の第4次男女共同参画計画における審議会等委員への女性登用率が目標値40.0%(H33)となっているのでそれと同様とする。												
③ 前期では「障害者福祉の充実」の成果指標だが、平成27年度以降60.0%に達しておらず、目標値(70.0%)から10ポイント以上低い実績値が続いているため、まず3年目の令和4年度に前期基本計画の現況値(平成25年度・60.8%)と同水準に戻し、そこからさらに5ポイント増の65.0%を目標とした。												
④ 後期で新しい成果指標となった。目標設定については、現況値(平成30年度・12.8%)では約1割にしか認識されていないところを、令和2年度には4人に1人が「知っている」と回答することを目指し、25.0%とした。												

**3 施策の役割分担**

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
男女が互いにその人権を尊重する。偏見を持たない。差別をしない。性別に関わりなく個性と能力を発揮していく。	・男性中心型労働慣行の見直しや多様な働き方の普及、人事の見直し。男女平等意識を高める。また、仕事と子育て等を両立できる環境整備(子育て支援)を行う。啓発・周知する。 ・すべての人が使いやすいよう公共施設のバリアフリー化を進める。 ・窓口対応や証明書の発行などにあたっては、可能な限り市民の多様性に配慮する。

**4 施策の状況変化・住民意見等 ※目標設定の前提とした後期基本計画策定時点の状況変化・住民意見等を記載しています。**

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～R6年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
LGBTという性別を超えた価値判断が社会の中で取りざたされている。社会が高度化するに連れ、性別・人権を取り巻く基準・判断が変化していく。争いのない平和な社会が継続していくか、国際的紛争が発生するか、可能性はどちらも言えない。男・女、日本人・外国人という比較の前に、人として個人を尊重するという考えが必要な時代となる。	その時代に合った判断ができるよう意識改革の必要がある。そのための知識・教養を高めていく必要がある。また、多様性を認め合う社会を構築していくため、他の自治体に先駆けて何らかの対策を取るべきである。

**5 予算等の推移**

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
関連事業本数	13	10	11		
関連事業予算額(単位:千円)	20,254	17,034	17,257		
(予算額の内訳)	国庫支出金	0	0	0	
	県支出金	0	0	0	
	地方債	0	0	0	
	その他	10,900	9,000	11,000	
	一般財源	9,354	8,034	6,257	

(1)目標達成度(目標値との比較)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より低い実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標より低い実績値だった		職場や地域で男女差別を感じている市民の割合、審議会等における女性委員比率、バリアフリーやユニバーサルデザインの意味を知っている市民の割合、多文化共生社会を知っている市民の割合はいずれも増減を繰り返しているが、全ての指標が目標に達していないため、目標より低い実績値だったとした。
(2)時系列比較(どのように変化してきたか)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した		4つの成果指標のうち、①③④については昨年度の実績値を上回った。成果指標②が増加しない要因については、まだまだ男性中心型労働慣行により、潜在的な差別意識が残っている結果ではないかと考える。成果指標③④については、世界的なSDGsの進展により、関心を示す市民が増加しているためであると考えられ、成果がどちらかといえば向上したとした。
(3)他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば高い成果水準である <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である		成果指標①③④は市民アンケートの結果によるものであり、単純に他市との比較は困難であるが、これまでの取組みにより昨年度の実績値を上回っている。成果指標②については、県が目標値40.0%に対して実績値が32.3%なのに対し、本市は45.0%に対して31.8%である。県と比較すると若干低いものの、県内では最も高い結果であるため、どちらかといえば高い成果水準であるとした。

7 基本計画期間における施策方針

(1)施策の基本方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭・地域社会・職場それぞれの環境の中で男女共同参画を推進する。</li> <li>・互いを尊重しあい、共感しあえる社会(多様性の社会)を構築するための周知啓発と体制の整備に努める。</li> </ul>

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R4年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R5年度)の方針

基本事業	今年度(R4)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R5)の方針
1 男女共同参画の推進	ハーモニープランに定めた41項目の数値目標達成に向け、推進会議で実情に合った取組みを推進する。 市民と職員で構成するハーモニープラン推進会議のワークショップでの取組みを、ハーモニーフェスタや情報誌で紹介すると共に、市ホームページやフェイスブック等で発信していく。 ハーモニープラン推進会議の委員を中心に、男女共同参画社会を形成できるような、人材育成を行う。	引き続き、家庭・職場・地域での男女差別的解消、性別に関係なく誰もが自由に意見が言え、互いに尊重する社会を目指しハーモニープラン推進会議の委員を中心に、男女共同参画社会を形成できるような、人材育成を行う。 行政機関・審議会等においても男女共同参画のもと、女性を積極的に登用していくよう、事前協議の中で庁内関係課に働きかけて行く。
2 多様性社会の構築に向けた環境整備	多様性社会の構築に向け、市民と職員で構成するハーモニープラン推進会議で研修や調査等を検討していく。 ハーモニープラン推進会議のワークショップでの取組みを、ハーモニーフェスタや情報誌で紹介すると共に、市ホームページやフェイスブック等で発信していく。	多様性社会については正しい理解が必要なため、研修会を開催する。 引き続き、ハーモニープラン推進会議のワークショップでの取組みを、ハーモニーフォーラムや機関誌で紹介すると共に、市ホームページやフェイスブック等で発信していく。
3		
4		
5		